

建設業の役割伝える

旭川実業高で防災出前講座

旭川建設業協会二世会

真川。

地域に根ざす建設業の役割を高校生に伝える事業の一環として行ったもの。防災への意識向上や、災害対応への理解を深めてもらうと企画した。

はじめに橋本会長があいさつ。「建設業はみんなの役に立っている仕事。この業界を知ってもらいたい。災害時に助け合えるよう、避難所の運営を

学んでほしい」と呼びかけた。

引き続き、地域貢献研修委員会の荒田政一委員が「北海道における自然災害と建設業について」と題して、

【旭川発】旭川建設業協会二世会（橋本毅会長）は二十六日、旭川実業高校で防災出前講座を行った。進学コースの一年生三十六人を対象に実施。建設業の災害対応などについて説明したほか、避難所運営ゲーム「HUG」を通じて防災意識の向上を図った。写真



る被害状況や復旧工事について説明。地域の守り手としての建設業の重要性を訴えた。

このあと、六班に分かれてHUGゲームを開始。厳寒期に地震が発生し、同校の体育館に近隣から百人ほどの住民が避難してきた状況を想定し、避難所で起こる様々な課題への対応策を考えた。

ゲームを終え、生徒たちは、「それぞれ違う条件の人達が一つの場所に集まってきたので大変だった」

「避難所の運営は大変だと分かり、良い経験になった」「みんなと意見を出し合えてゲームを楽しめた」などと感想を発表した。

最後に谷脇勝英副会長が総括し、「限られた時間の中で、うまくいったところも、そうじゃないところもあったと思うが、きょうの経験を今後にかかしてほしい。将来の選択肢の一つとして建設業を考えて」と呼びかけた。